

本園の特色ある活動

越前市吉野幼稚園

1 園の実態

本園は旧8号線の西に位置し、近辺に水田や愛宕山等があり、自然環境に恵まれている。近年、園周辺に新しく家が建ち、核家族の家庭が増えてきている。

園児は3歳児、4歳児、5歳児の3クラスで合計23名である。年齢別の保育を中心としているが、『なかよしグループ』という縦割りグループでの保育も計画的に実施している。

保護者は園活動に対して協力的で、保護者会ばかりでなく保育公開や保育参加にも積極的な参加があり、子ども達は温かい支援の中で育っている。

2 活動のねらいと取り組み

① 多様な経験を通して、豊かな心や考える態度を育てる。

今年度は、幼児の心を動かすような体験を多くもてるように園内外の環境を見直し、生活の中で気付いた事象に関心を示し、自ら考えたり、友達と一緒に工夫したりすることで豊かな心や考える力が育つように活動を進めた。

<飼育、栽培>

・遊びに使える植物を栽培して育てたり、花びらを摘んで色水遊びをしたりして色の違いや濃淡を見て感動する経験をもった。また、収穫した種に水糸を通しアクセサリーなどづくり、友達と長さを比べ出来上がった物を身に着け、完成した喜びを味わう経験をした。

・金魚やカブトムシなどの生き物を飼育し、観察したり、世話をする時に触ったりして成長の変化や不思議さを体験した。

<よしのっこプレイランド>

・5歳児を中心に話し合い、今年は『まつり』をテーマにして5つのグループに分かれ遊びを進めた。5歳児は自分達の経験や、やりたいことを実現しようと4歳児と一緒に試行錯誤し、楽しみながら準備することができた。3歳児も教師と一緒にクラスでの電車ごっこをまつりに取り入れ、教師は幼児のやりたいという気持ちをくみ取り、遊びを進めた。



よしのっこまつりの深海射的



初めての生け花



5年生と交流：手作りすごろく

<ゲストティーチャー>

・よさこい、お茶教室、絵本の読み聞かせ、かきもちづくりを体験した。今年度は、5歳児がお茶の先生に生け花を習い「楽しい！」と喜び、保護者からは、「また家でも子どもと一緒に楽しみたい。」という感想を聞くことができた。もちつきの後に恒例のかきもちづくりを行い、わらで吊るせるように編み方を習い、いろいろなゲストティーチャーと一緒に日本の伝統文化に触れることができた。

<避難訓練>

・火災、地震、台風、原子力災害、不審者など年間9回避難訓練を行った。毎回カードを準備し、訓練後カードを見て振り返りを行い、保護者にも分かるよう（保育の可視化）に持ち帰るようにした。

② 異年齢の交流を通して、思いやりや優しい心を育てる。

＜地域の保育施設、小学校との交流＞

- ・地域内の4園の5歳児は、6月と9月に交流を行った。集団遊びや学校見学と活動とともにし、最後は給食も一緒に食べ、互いに親近感を深め、就学への期待感が増したようだ。
- ・体育大会や学習発表会だけでなく、わいわいスマイルフェスタや縦割り班活動、5年生の幼稚園訪問活動があり、常に身近な存在として関わり、『お兄ちゃんやお姉ちゃんはすごい！』『また遊びたい。』など憧れの気持ちを持っている。

＜未就園児、高齢者との交流＞

- ・未就園児体験保育（あそびにおいで）は、年10回開催し、園舎を開放し親子で広い空間や季節の環境など園児と一緒に共有して関わっている。また、地域の子育ての手助けとなれるよう、声掛けや対応に努めている。
- ・祖父母参観で園児の祖父母とクッキングをしたり、触れ合えるゲームをしたりして一緒に時間を共有した。また、伝承遊びの会では、こま、お手玉、めんこなどを教えてもらい、遊びの、こっただけでなく和やかな雰囲気の中で会話を楽しむことができた。



祖父母参観でのゲーム

③ ふるさとや園周辺の自然を生かした活動を取り入れ、豊かな情操を育てる。

＜園外保育＞

- ・おたまじゃくし捕り、よもぎ摘み、ドングリ探し、虫捕りをして地域の豊かな自然に触れて季節の違いに気付き、季節の変化を楽しむことができた。捕まえた生き物は、育てたり、観察した後に逃がしたりして生き物の体の様子や特徴を確認することができた。よもぎは摘むと匂いが感じられ、食べると体によいことも知り、よもぎだんごにして味わった。



愛宕山探検



生き物観察



よもぎ摘み

- ・鯖江市の西山公園や福井市の防災センターに出かけ、普段できない体験をし、自然のすばらしさや、怖さも知り、命の大切さを学ぶことができた。

＜野菜栽培＞

- ・園内の畑で身近な野菜を栽培して生長を見たり、世話をしたりすることで「どんな花の色かな。」とか「変わった形。」「数を数えよう。」などと探究心をもつことができた。

3 活動の成果

- ・多様な経験は幼児の心を豊かにしていた。また、友達と思ったことを言葉で伝え合うことで語彙も増えた。さらに会話の中で人の話を聞こうとしたり、自分の考えなどを相手に伝えたりすることにより、自信をもって行動するようになってきている。
- ・異年齢の交流では、人との温かい触れ合いをもつことで親近感をもつようになり、人に対していたわったり、優しく接したりできるようになるなど思いやりの心の育ちが見られるようになった。
- ・地域の豊かな自然に接し、生き物に関心をもち、命を大切にしようとする心が育ってきている。